市長コラム

祭り再生

今年も暑い中、夏の行事が各地域で行われました。その中で今年、特に感じたことは、夏祭り、盆祭り等、これらの地域の祭りが時代の変化に伴い転換期を迎えているということです。

少子化高齢化の現代社会で、今までのように地域で運営することが役員の重い負担となっています。役員や代表者の方々の負担は増加する一方で、深刻な協力者・後継者の不足、設備等の老朽化や開催費用等の資金的な問題が人々の生活に根づいていた地域の祭りを脅かしています。今年、笠間地区では2つの盆踊りが中止となりました。理由は資金や後継者の不足と聞いています。地元では祭りの準備等、さまざまな問題や苦労があっての中止であると思います。しかし、とても残念でなりません。

▲平地区夏まつり・盆おどり

一方で、農地や農業用水の環境を守る取組みを支援する補助金を活用した祭り（どんと焼き、メダカの学校）などが、新たな地域の行事として行われています。地域の祭りやイベントは、子どもたちの情操教育や思い出作りとなるだけでなく、現在まで続いてきた歴史を継承したり、地域の連帯感を強めたりするなど、さまざまな効果があります。

今後、地域の伝統的行事や祭りを絶やさないためにどうするか、市民の皆さんの提案を伺いながら、知恵を出していきたいと思います。私は、地域再生を図る上で行政が一定の支援をすることの必要性を感じています。

そして、少子化高齢化の中で地域再生の一つのポイントとなるのは、元気な中高年者が地域を引っ張って行くことです。今までの知識や経験を活かして、元気を出そう！中高年！

笠間市長　山口伸樹

アグリ旬

農政課からのお知らせ

筆耕・問合せ：農政課（内線527）

笠間の名産品 コギク

認証品 かさまの粋（すい） 笠間市農産品ブランド化推進協議会

「JA茨城中央の小菊」として、「かさまの粋」に認証されている。出荷時期は5月下旬～12月上旬。

笠間市は、小菊の老舗産地です。

その始まりは、昭和20年に友部地区に植えられた1株の菊苗だったといわれており、産地の歴史は約70年にも及びます。それ以来生産者を増やし、平成5年には茨城県花き銘柄産地に指定され、名実ともに県をリードする産地へと発展してきました。

現在、笠間市内の小菊生産者は約90名で、高品質かつ安定生産を誇る当産地の小菊は、東京や神奈川の市場で高い評価と信頼を得ています。

なお、これらの小菊は、笠間市が誇りをもって全国へ届けるブランド「かさまの粋」認証農産品のひとつでもあります。

生産者の皆さんは産地を守る意欲も高く、将来を見据えた強い産地づくりをしていこうと、平成21年度からベテラン生産者「花の匠」たちによる後進指導・育成を始めました。これにより約20名の新規栽培者が育ちました。

今後も、新規者の募集・育成を行い、生産者や関係機関一丸となって産地を盛り上げていきます。

【出荷作業の様子】

1 出荷を待つ小菊「友部」の名は市場では有名なブランド名　2 全箱開封検査の様子　3 生産者の皆さん